

パリー大学海藻学教室を訪ねて

近 江 彦 栄

昨年 11 月中旬にパリーを訪れて約 1 週間程滞在し、その間パリー大学海藻学教室 Laboratoire de Biologie Végétale Marine, Faculté des Sciences, Université de Paris とフランス国立博物館 Laboratoire de Cryptogamie, Muséum National d'Histoire Naturelle に通ったが、その時の若干の印象を記してみたい。この教室は 3 年前まではソルボンヌにあったが、現在はセーヌ河近くの第 5 区 Quai Saint-Bernard に移転した理学部新館の 6 階にあり、今も尚拡張工事中でかなり広い面積を占めている。新しい建築様式で落ちついた壮麗なソルボンヌの旧館とは比較にならず、アメリカの大学を思わせるものがあるが、内部は極めて清潔である。付置研究所としては Roscoff (Finistere) に Station biologique があり、パリーとはかなり遠距離であるが、培養に用いる海水はそこから運ぶとのことである。昨年 8 月に第 11 回太平洋学術会議で来日された FELDMANN 教授がこの教室の主任で、Mme. G. FELDMANN を始め、下記のように多くの研究者が居り、数名の方と話しあうことが出来た。

Professeur J. FELDMANN, Directeur

Mme. G. FELDMANN

R. DELEPINE (Antarctic algae)

Mme. M. F. MAGNE (Diatom)

Mme. J. CABIOCH (Roscoff, Corallinaceae)

Mme. L'HARDY-HALOS (Roscoff, Morphology of Ceramiaceae. CNRS)

Mme. B. CARAM (Phaeophyceae)

Mme. A. BOILLOT (Life history of red algae)

Mme. J. GAILLARD (*Padina*)

Mlle C. ABELARD (CNRS)

M. G. LEGER (Monaco, Phytoplankton)

Mme. S. LOISEAUX (CNRS)

M. C. VALLET (Algae from Caledonia)

Mme. M. H. LAUR (Lipids in algae)

(CNRS: Centre National de la Recherche Scientifique)

このリストからも分るように欧米には女性の研究者が多く、夫婦揃って藻類学の研究に従事している例も珍しいことではない。又 undergraduate や postgraduate の学生にも女子が多い点は日本と大分違うようである。

一方国立博物館は rue de Buffon にあり、海藻学教室とは近距離にある。宿が rue des Ecoles にあったので、朝晩この通りの中程にある MONTAGNE の大きな像を仰ぎ見ながら通ったものである。この博物館は Rockefeller 財団の寄付金で建てられた立派な建築で広い植物園の中にあるが、ここには淡水プランクトンの研究者で、その近著 *Les Algues d'eau douce I. Chlorophycees* (1966) で知られる Dr. P. BOURRELLY 及び M. DENIZOT が居り、前者は *Revue Algologique* の代表者であることは周知の通りである。ここで *Porphyra* の腊葉標本を調べたのであるが、MONTAGNE, THURET, BORNET などの多数の標本が収蔵されている。

パリ滞在中は R. DELEPINE 氏のお世話になり、たまたまスペインからテングサ属の研究に来ていた Dr. J. SEOANE CAMBA と一緒に夕食に彼の家へ招かれたこともなつかしい思い出である。第6回国際海藻シンポジウムがスペインで開かれる際には、日本からも参加出席を待っているとのことであった。

(北大水産学部)

日本水産学会シンポジウム候補題目の公募について

現在シンポジウム企画委員会の手持ち題目は14篇ありますが、藻類関係(生物系)としては1篇もありません。毎年、年会(4月東京で)、秋季大会(各支部の廻り持ちで、本年は近畿大学、43年九大、44年東北大、45年北大の予定)に各、生物系、化学系1題宛、年間計4篇が計画されています。現在明年度年会分迄は決定しています。

手持ち題目中、多少関係のありそうなものでは、

- 水産物の環境制御による培養飼育
- 紅藻類の成分と利用
- 有毒プランクトン

の3篇です。

シンポジウムの趣旨としては、汎く会員が参加出来る題目であること。従って課題提供者も討論者も広い専門分野にわたることが望ましいわけです。

年会、大会毎に委員会が開かれ、委員が提案者となり、題目と企画者、企画案の説明を致します。具体的な企画案を御寄せ頂きますと、採択の可能性が強くなるわけであり、企画案は、未交渉の段階でも結構です。次の様な体裁で御願致します。

1. 題 目
2. 企画者名 (複数でもよい)
3. 開催の趣旨
4. 実施要領実施予定時期
 - 1) 細題目毎の座長、講演者名 (話題提供者)、討論者名 (予め選ばず座長指名のケースもあります)
 - 2) 各細題目、総合討論の時間の配分

とり敢えずは、題目と企画の概要丈でも御知らせ頂き、後刻計画の詳細を御送り下さる手筈でも結構です。尚期限はございませんので随時御寄せ下さい。一応今秋の委員会の資料としては6月頃にとりまとめる事に成っています。

(連絡先 福山市緑町2-17 広島大学水畜産学部 藤山虎也)

学 会 録 事

会 員 移 動

(昭和41年10月21日から昭和42年3月31日まで)

新 入 会 (16名)